

足立区少年団体連合協議会

少連協ニュース

○発行/足立区少年団体連合協議会 〒120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275
○発行人/四宮淳司 ○編集/調査広報部 川田 鈴木(春) 辻村 岩井 熊澤 仁科 常田 (大関)



▲ドッチビー大会 全16チーム参加 ～みんな頑張りました！～

目次

- 会長挨拶……………1
- 足立区民まつり……………2
- 東京都子ども会
育成研究協議会……………3
- 日帰り研修会……………3
- ジュニアリーダー育成……………4
- 第56回全国子ども会育成
中央議会・研修大会……………5
- 全国子ども会連合会
表彰を受けて……………5
- ドッチビー大会……………6・7
- 新年会を開催……………7
- 地少協の活動……………8
- 訃報……………8
- 編集後記……………8

今年も、ジュニアリーダー研修会、キャンプ、ドッチビー大会などの少連協の事業にご協力をお願いいたします。そして、各地区少年団体連合協議会や子ども会活動が円滑に行えるように、共に努力して参りましょう。よろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年はジュニアリーダー研修会、御殿場中学生と6年生・鋸南5年生の宿泊キャンプにおいて多くの参加者と体験活動を共にすることができました。ジュニアリーダークラブ、キャンププロジェクトの皆様のご協力に感謝いたします。また、第52回東京都子ども会育成者研究協議会では、ホストシティとして大会を盛り上げていただいた事に厚く御礼申し上げます。

年が明け、令和6年がスタートしました。元旦におきた「令和6年能登半島地震」で被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

皆様の「ご協力」に感謝

足立区少年団体連合協議会

会長 四宮 淳司





▲大盛況のふわふわトランポリン (くたびれたゾー)

あだち区民まつり
A-Festa
2023

笑顔に包まれて

副会長 田中 加代

10月7日・8日は、開催史上かつてない晴天に恵まれました。2019年は台風直撃の為に中止、その後コロナウイルス感染拡大の為に開催中止を余儀なくされたAフェスタは、5年ぶりの開催を待ち望んだ区民の笑顔の花が、荒川土手「虹の広場」にあふれていました。

わくわくゾーンでは、少連協が協力団体として、チャップンの大冒険のスタンプリアー、ストラックアウト、飲料販売、くじ引きを出店しました。各地少協から例年より多くの方々が協力してくださり有難うございました。

また、賑わいを添えていただいた出店参加7団体の皆さん、ジュニアリーダークラブの皆さん、お疲れさまでした。

物販部門では、当初予定していた2日間の販売数を初日で完売するほどでした。初日終了後に2日目の物品調達も良い経験となりました。

子ども達が楽しみにしていたふわふわトランポリンは7日朝、強風の為、多少の遅延がありました。途中で他の団体の邪魔にならないよう順番待ちの列をパイロンとポールを駆使し、会場整理を余儀なくされるほど、多くの子ども達に楽しんでもらえました。

今回のAフェスタでは、アレルギー対応も慎重に対応し、またSDGsの取り組みを表示するなど時代を見据えた開催でした。

リサイクル食器の提供団体の回収ステーションの協力も急な依頼ではありましたが、ジュニアリーダークラブ・育成部の方に臨機応変に対応していただきました。

晴天に恵まれた虹の広場では、参加ファミリーがレジャーシートをあちこちに広げ、区民まつりを楽しんでいました。これは従来にない楽しみ方です。

チャップンの大冒険スタンプリアーは、7日参加者3500人、完歩者1924人、8日参加者4000人、完歩者2680人(2日目は、スタ



▲ふわふわの中で楽しむ子どもたち



▲スタッフ全員集合!

ンプ用紙がなくなつての終了でした。4600人超の人々とのジャンケンはとても大変だったと思います。

どのブースも少連協の皆さんの子どもの達への熱い思いが詰まった成果だと思えました。次回も、協力者・参加者が共に楽しめるお祭りが開催できますようご協力お願いします。



東京都子ども会 育成研究協議会

事業研修部長 関 昭男

11月19日(日)、綾瀬勤労福祉会館(ブルミエ)にて「第52回東京都子ども会育成研究協議会」が開催されました。この会の中で講師の日本体
育大学准教授・WBCチーフトレーナー河野徳良氏より基調講演「コロナ後の子ども達、育成者がどのようにスポーツに向き合うべきか」と、大正大学客員教授・落語家金原亭世之介師匠から「なぜ挨拶をしないといけないんですか?」の講演がありました。



▲金原亭世之介師匠講演での実演

また、育成者部会「10年後の子ども会は?」をテーマに、各グループに分かれ未来新聞を作成しました。

時は2033年11月19日(土)付けです。我がグループは「みらい新聞」号外とし、2本の記事にて作成しました。1本目は小金井市が現在行っている「ミステリートレイン」の開催です。参加者の減少で毎年開催が難しくなっている現状の報告を受け、この行事の参加者を都全体に広げようと募集したところ12両編成の電車で2000人に達し、成功裏に終わることができたとの報告記事でした。

2本目の行事は「東京都子ども会大運動会」の開催です。場所は国立競技場にて行われ、子ども会の子も達が集まりました。来賓には天皇皇后両陛下をお迎えし笑顔で観戦、応援を戴いたとの想定の記事でしたが、この新聞の作成にあたった各地区育成者の皆様方の想像力の豊かさに驚きと感銘を受けました。そのほか各グループの記事も素晴らしいものでした。



▲各グループごとに「みらい新聞」作成

日帰り研修会

総務部長 鈴木 匠

令和5年11月26日(日)、少連協総務部主催の「日帰り研修会」が、青少年課物工課長にもご参加いただき、総勢32名で実施となりました。今回の研修先は足立区の友好都市である鹿沼市でした。車中では7月に開催されたジュニアリーダー宿泊キャンプのDVDを見て研修を行いました。

鹿沼市内では、木のふるさと工芸館にて鹿沼組子の体験として鹿沼杉のコースターを作る体験をしました。今宮神社から仲町屋台を散策し昼食へ。蕪そばや鹿沼焼売等、地域のをいただきました。

午後は利根川水系で令和6年度完成予定の南摩ダムをダムサイト展望台より建設中の現場を見学しました。

迷(?)添乗員により途中いくつかのハプニングもありましたが、忘れられない研修会になったと思います。



▲建設中の南摩ダム展望台より



▲木のふるさと工芸館
～彫刻屋台～

地域・学校・社会で活躍する

ジュニアリーダー育成

鋸南キャンプ

育成部長 五十嵐 渉

令和5年11月3日(金)～11月5日(日)、5年生65人は、足立区立鋸南自然の家(千葉県安房郡)に研修に行ってきました。

6年生になるとテント泊になるので、テント講習を受けました。テントの安全な組み立て方や、ポールの組み立て方・杭打ち角度・撤収などを学べたと思います。



▲海をバックに全員集合！



▲テント講習

メインイベントのキャンプファイヤーは、最初は小さかった声も、リーダー達の団結と熱意が伝わり、みんなの歌声も大きくなり力強く一体感のある元気な声に変化しました。

このキャンプファイヤーでの感動は、スタッフとリーダーを含め、参加しなければ味わえないと全員が感じていると思います。

毎回のキャンプですが、少連協、青年リーダー、中高生リーダー、看護師、区役所の皆様が、キャンプに向けての会議を何回も重ねて安全管理や子ども達が楽しめるプログラムを考え、すべてにおいて無事故に終わるように連携し努力しております。ご協力して下さいました皆様に感謝です。

いつか参加された子ども達が、リーダーになりボランティアに参加してくれることを願っています。



▲感動のキャンプファイヤー

プログラムディレクター 木村 颯汰

今回のキャンプで初めてプログラムディレクターを務めるにあたり、恩師から「キャンプは準備9割、本番1割」という言葉を常に言われており、沢山の話し合いを重ねて本番を迎えました。

しかし、想定とは違う事がたくさん起きてしまい、焦ってしまう部分も多々ありましたが、周りのリーダーや大人の方々に助けられました。大きなトラブルやミスをする事なく、全員無事に帰る事ができ、ここぞしか味わえない最高のキャンプを行う事ができました。

今回のキャンプで多くの自信を持つ事ができ、今後の研修会やキャンプに役立てていきたいと思いました。

第56回全国子ども会育成中央会議・ 中央会議・研修大会

会計 西村 秀彦

全国子ども会育成中央会議・

研究大会が「これからの子ども会く子どもたちと地域の未来に向けて」をテーマに令和5年10月27日より3日間の日程で北海道札幌市にて開催されました。足立区少年団体連合協議会からは四宮会長以下総勢4名で参加いたしました。

初日は京王プラザホテル札幌にて開会式の後、表彰式が行わ



▲全体会

れ足立区からは個人表彰を西村秀彦、団体表彰を東子ども会(団体表彰は令和5年11月19日東京都育成研究協議会にて実施)が受賞いたしました。その後、中塚尚子医師による「子どもの心をのぞいてみればー地域医療から見る問題点と対策」記念講演が行われました。

2日目は北海道立道民活動センター(かでの2・7)にて分科会が実施されました。今年度のテーマに沿った9つの分科会が設けられ、各分科会で討議がなされました。私が所属した分科会のグループでは、南は九州、北は北海道の指導者が集まっの話し合いとなり、各地域の人口の違い・公共団体との関係(補助金・職員の関わり)の違いなどが地域により大きく異なっており、それに伴い各地域の子ど



▲分科会～真剣な討議～

も会組織の運営の違いが聞けて勉強になりました。その後、ホールに参加者が集合し分科会での討議結果の発表及び閉会式が行われました。

3日目は、北海道博物館・北海道開拓の村などを視察して帰途につきました。



全国子ども会連合会表彰を受けて

第五地区少年団体協議会

西村 秀彦

今年度の全国子ども会育成中央会議表彰式において個人70人、団体30団体の表彰が行われました。私も個人表彰の一人として受賞させていただきました。

この様な荣誉に与れたことは私個人の功績ではなく、子どもたちの為に一緒に活動していただける各組織の皆様の活躍有つてのものと思えます。代表として受賞させて頂きましたが、一緒に活動している皆様のおかげと感謝しております。

この様な賞を受賞すると引退という方も多しとは存じますが、私は体が許す限り活動を続ける所存ですので宜しく願っています。

今回ご推薦を頂きました足立区少年団体連合協議会、東京都子ども会連合会の皆様にご礼申し上げます。



▲受賞者の西村秀彦氏





第16回 ドッチヂビー大会

大体育室に歓声が響く！

事業研修部副部長 坂田 光穂

少連協恒例のドッチヂビー大会が、2月11日（祝）足立区総合スポーツセンターにて開催されました。コロナ禍で4年振りの一日開催となりました。

大会には、小学生11チーム、小・中学生混合6チーム、計17チームの参加があり、3つのブロックの総当たり戦で行われました。どのチームも対戦を積みごとに試合運びが慣れてきて、子どもたちの声が響く中、3分半ハーフの計7分、熱戦を繰り広げました。

結果、小学生チームは、綾瀬キッズ（東綾瀬地少協）、榎戸町会児童部（保塚地少協）、花保子ども会A（保塚地少協）、ヒビケⅡ（第11地少協）の4チームが決勝トーナメントに進みました。決勝戦では、花保子ども会AとヒビケⅡが、14対14の同点の熱い試合となり、更に2分間の延長戦を行い、花保子ども会Aが優勝しました。準優勝はヒビケⅡ、3位は榎戸町会児童部となりました。

小・中学生混合チームは、優勝ピンクパンサー（扇地少協）、準優勝は堺

田町会子ども会B（保塚地少協）、3位は花保子ども会B（保塚地少協）となりました。

大会運営は、少連協役員を始め、ジュニアリーダークラブ16人の大活躍とともに、審判をスポーツ推進委員35人が協力いただきありがとうございました。

ギャラリイにも大勢の保護者の方に応援いただき、やっとコロナ前に戻ってきたなど実感しました。

順位は付けますが、それぞれのチームは学年が混じって一つのことに夢中になって取り組む、その仲間意識が大切だと思えます。みんな頑張っている顔をしていました。

来年も2月に実施する予定です。今回参加されなかった地少協も、練習して子どもたち大勢の参加をお待ちしています。

レッツ ドッチヂビーノ 事業研修部からの報告でした。



▲小学生の部 優勝 花保子ども会A



▲小・中学生の部 優勝 ピンクパンサー

小学生の部	
順位	チーム名
1位	花保子ども会A(保塚)
2位	ヒビケⅡ(第11)
3位	榎戸町会児童部(保塚)

結果発表



小・中学生の部	
順位	チーム名
1位	ピンクパンサー(扇)
2位	堺田町会子ども会B(保塚)
3位	花保子ども会B(保塚)



優勝チームにインタビュー！

小学生の部 花保子ども会A(保塚地少協)

小・中学生の部 ピンクパンサー(扇地少協)

優勝した今の気持ちは？

(花保A) とてもうれしい！

(ピンク) 8年かけて練習してきたかいたがあった。嬉しいです。試合前、緊張で牛丼が食べられなかったのは残念。

ドッチビーの練習は楽しかったですか？

(花保A) 楽しかった！

(ピンク) とっても楽しかったです！

何回ぐらい練習しましたか？ 練習の時、何か工夫はしましたか？

(花保A) 10回練習しました。パスを工夫しました。

(ピンク) 月に2回練習しました。当てる時とパスする時の強さ、相手に背中を見せないこと。大人が、たくさん練習にきてくれて教えてくれた。

練習でつらかったことはありますか？

(花保A) 上手くいかないと悔しくて嫌になりそうになった。

(ピンク) ないです。

今の気持ちを誰に伝えたいですか？

(花保A) 家族、友達、学校みんな

(ピンク) 校長先生、家族、試合にこれなかった人



来年度も参加したいですか？

(花保A) もちろんです！

(ピンク) 参加したい。



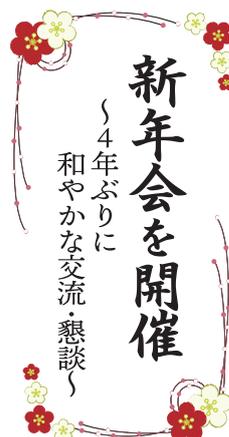
▲区歌斉唱

令和6年1月12日(金) 区役所最上階「ソラノシタ」において、副区長 長谷川様はじめ、14名のご来賓をお迎えして足立区少年団体連合協議会の新年会が4年ぶりに開催されました。

参加者一同による区歌「わがまち足立」の斉唱に始まり、四宮会長から「より多くの子ども達がジュニアリーダー研修会やキャンプなどに参加し、私たちは、学び・体験の支援に努めていきたい。」との年頭あいさつがありました。

参加者皆様方は和やかな雰囲気の中で、地域の子ども育成事業や活動など、それぞれ懇談の輪を広げながら、明るく楽しいひと時を過ごされました。

副会長 大関 英広





▲子どもたちのメッセージカードと手作りのクリスマスツリー

コロナ禍でも子どもたちに参加を

青井地少協会長
坂田 光穂



青井地区少年団体協議会では、コロナ前まで毎年11月3日に大運動会を開催してきました。しかし、コロナでブレイキがかかってしまい、代わりに子どもたちが参加できる事が無いかな？と、役員で考えた結果、近所の病院を励ますメッセージカードを送ることに決めました。子どもたちがお世話になっている青井・加平小の学校医さんと等潤病院へメッセージカードを書いて花かごに刺して届けました。鈴木病院長は大変喜ばれ、東京新聞にも写真入りで掲載されました。

そこで、次に考えたのが青井駅のイルミネーション飾りです。

青井駅はロータリーにお店が1つもなく、夜を明るくしようとして駅前自治会と協働してクリスマスイルミネーションを実施しています。子どもたちにクリスマスカードを書いてもらいイルミネーションと一緒に飾っています。

この企画はクリスマスだけでなく、春の入学メッセージ、夏のお化けイルミネーション、そしてハロウィンと年間通じて実施するようになりました。
令和5年も、クリスマスイルミネーションをバージョンアップして飾りました。これからも工夫しながら子どもたちの参加できることを実施していきます。

Activity 地少協の活動

作品コンクール開催 子どもたちの個性光る

舎人地少協会長
中村 清代

令和5年8月26～27日の2日間にわたり、舎人地少協主催「第40回作品コンクール」を古千谷小学校体育館にて、開催することができました。当初コロナ禍の中で、作品を集めるのは至難の技ではないかと色々言われていましたが、夏休みの忙しい中、五つの子どもの会の役員さんの努力の結果、15点(書道、図画、工作の三部門)の作品を出展することができました。

来賓69名の方々の投票により、最優秀賞、優秀賞、入賞を決定させていただきました。以前のよう華やかな作品は、あまり見られませんが、それぞれの個性が光った作品が多かったように思います。



▲最優秀賞の作品



▲優秀賞の作品



▲優秀賞の作品



令和5年12月30日、会計幹事山崎金壽氏(享年81歳)がご逝去されました。
生前のご功績をしのび、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
【経歴】
平成9～20年 第十地少協会長
平成11～22年 少連協副会長
平成23年～ 少連協会計幹事
永年にわたり、地域の青少年健全育成にご尽力されるところに、少連協役員として重責を担ってこられました。

編集後記

今年度のドンデビー大会は、時間短縮することなく、コロナ以前と同じタイムスケジュールで、一日行事として行うことができました。行事のほとんどは、元の形に戻ってきており、うれしい限りです。来年度も、たくさんの方の行事を通じて、子どもたちの笑顔が感じられる紙面を作成していきます。
71号を発行するにあたり、ご協力をいただいた皆様ありがとうございました。

